

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2016年7月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺) 青少年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp



「私のところに届いている」ものは、 あなたのところにも届いている。

青少幼年スタッフ **本澤 盛正**

今年もまた夏がくる。
一年に一度、この京都の暑い暑さの中、
全国から集まってくる子ども達とみんな、
大きな子ども会をやるってだけでワクワクしてこないかい？

その場所に立つといつも思う。
子どものためだけにじゃなくて、
自分のためにそのステージがあるんだって。
一緒に過ごすわずかな時間の中に、
たった一度の出遇いがあり、別れがある。
そんなことは本当は
毎日どこでも起きていることかもしれないけど、
どこかで区切りをつけないと、
そのことを感じられないのかもしれない。

東本願寺でみんなでバカやったり、大切なこと聞いたり。
一緒にメシ食ったり、枕並べて寝たり。
「私のところに届いている」ものは、
あなたのところにも届いている。
みえる世界はちがっていても、感じる想いはことなっても、
届いた願いはかわらないう。

今年もまた夏がくる、
変わらぬ姿で。
一年を踏みしめた、ほとけの子と大きなほとけの子に
出遇うために…。

蓮ちゃん通信 その1

夏休みは 東本願寺に 泊まろう!



7月末から8月下旬にかけて、「同朋ジュニア大会」や「真宗本廟子ども奉仕団」、「真宗本廟中学生・高校生奉仕団」が開催されます。ぜひ、お誘いあわせで参加ください♪

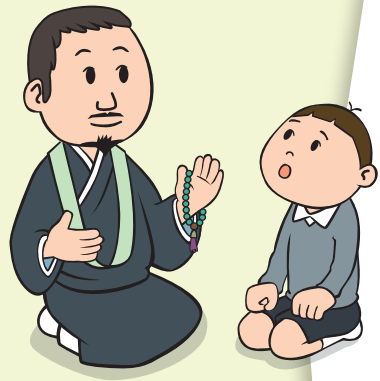
詳しくは、

安養寺 夏のラジオ体操

じいじいちゃんはどいっした？

高田教区

金子 光洋



何年前におじいちゃんが亡くなった時、子どもがこんなこと言ってる。

「お父さん。じいじいちゃんは死んだらどいっしたの？」

「じいじいちゃんはお浄土へいったんやわ」

「お浄土ってなん？」

「どいっやろな……」

人が亡くなったらどこにいくのかな？どこにいくと思う？うちの子は気になって仕方なかったみたい。その時の不安そうな顔見てたら、どうやらじいじいちゃんのことだけと違って、自分が死んだらどうなるのかわからないことも気になったと思うねん。

みんなは学校行ったり友達と遊んでたら、あれやりたい！こうなりたいたい！って思うことがあるやろ。ワクワクするよきな気持ち出てきたら楽しい

な。でも、それができなくなったりすると、悲しくなったり寂しくなったりするんちがう？そうならどうしよう。

この前こんなことがあってん。近所のショッピングセンターに買い物に行った時、急に子どもがパツと手を離してどこかに走って行ってん。案の定、迷子になって泣きながら僕のことを探してた。みんなは迷子になったらどうする？誰かに教えてもらったわけではないけど、親とか一緒に行った人を探そうになつてんねん。迷子になった時、親とか一緒に行った人のことを呼びし、反対に子どもがどこに行つたんやろうと思つて、その子どもの名前を呼びながら探すよな。でも困つたことに、会えたら安心してまたどこかに走って行ってしまつてねん。

そんなことがあって、僕も子ども頃、迷子になって泣きながら親のこと探してたなんていうことを思い出してん。僕は今年で41歳になるねん。見た目はだいぶんおっさんになって、大人になったつもりでいるけど、不安や心配事はいっぱいあるや。

子どもたちと聞く法話

友達とか家族とか世の中の事とかどうしていいかわからん不安。その不安は、僕が安心できる処を探してらんやでっていう事も一緒に教えてくれるねん。迷って不安になった時は友達とかには見せへんけど、心の中ではいつも泣いてるねん。もうおっさんになつたから、泣きながら大声出して親を探す事はないけど、本当の親を探してるんかもしれへん。子どもみたいに迷っても安心して帰る処があったら、またそこから新しく出発できるねん。行き先のわからん迷子も大変やけど、帰る処がわからん迷子はもっと大変やで。

人が死んだら、私が死んだらどこにいくんか、どうなるんか。迷子の事を言ったけど、それは自分が安心して帰る処がわからんから、亡くなつていった人の事をそう見てしまうのかも。自分より先に亡くなった人が迷子になつてるんじゃないかって、自分が迷子になつてるでっていう事を教えてくれてるんちがうかな。迷子になつてるでって教えてくれるはたらきを「あみださん」っていうねん。安心して帰る処へ呼び返してくれるのも「あみださん」。子どもの言葉を借りたら「じいじいちゃんは死んだらどこにいくの」っていう迷子の呼びかけに、じいじいちゃんを通して「ちゃんと帰る処があるねん

蓮ちゃん通信 その2



リーフレット「ほとけの子」

お盆 無償

無償でお使いいただけるリーフレットです。お盆のお参りや子ども会でぜひ活用ください。

※詳しくは、各教務所にお問合せください。



で「って親みたいに心配して応えてくれる、あみださんの呼びかけを聞く事が大事なんちがうかな。さつき僕は、自分の事を見た目はだいぶんおっさんになって大人になつたつもりでいるって言ったけど、どんなにおっさんになつても、おじいちゃんになつても、迷子になつたらだの子もっていうことやねん。あみださんの呼びかけを聞くと、もつことは、年とか関係なくって、もつといえど何が違つても一人ひとりがあみださんの子どもなんやっていうことやで。ちゃんと帰る処があるっていうことやで。

そんなことをじいじいちゃんが亡くなつて教えてくれました。



かんたん! たのしい! たこさんヨーヨー

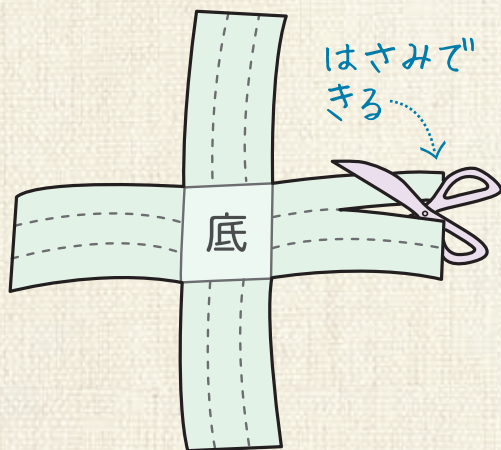
ひとりからはじめる
イベントレシピ



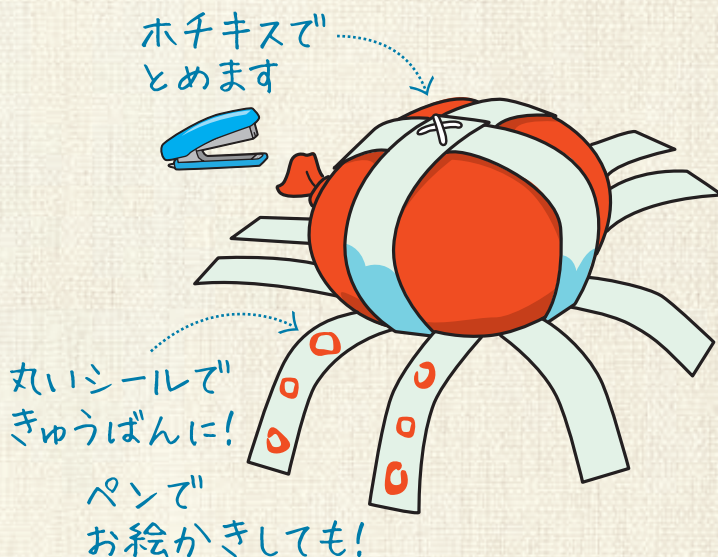
準備
するもの

- 牛乳パックー1パック
- 風船——1コ
- 輪ゴム——2本
- はさみ
- ホチキス かざりつけ用
- 油性ペン・シールなど

1 牛乳パックを図のように開き、
1辺を3等分に切ります。



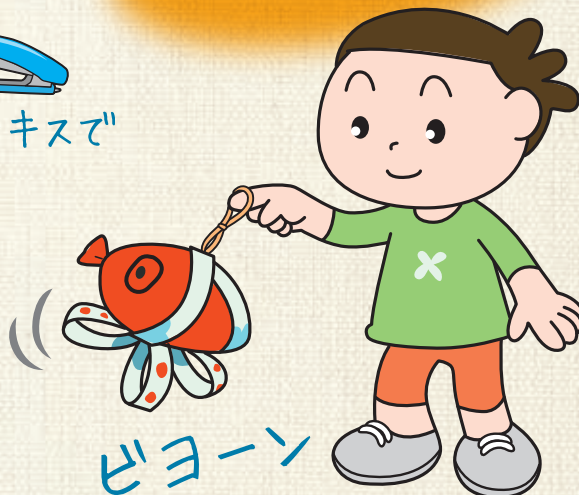
2 1辺のそれぞれ真ん中の1本を
風船に巻きとめます。



3 残りの8本をたこさんの
足のようにぐるりととめて
風船におもしろい顔を
描いちゃおう!



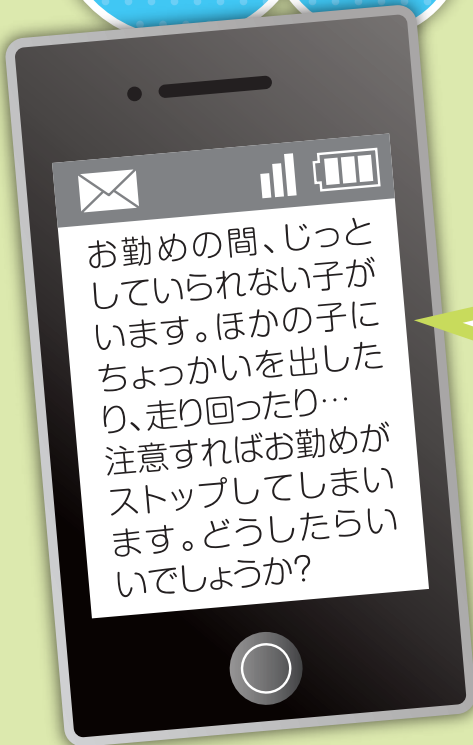
できあがり!



Re:

サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとをサガエさんにお尋ねするコーナーです。



お勤めの間、じっとしてられない子がいます。ほかの子にちょっかいを出したり、走り回ったり…注意すればお勤めがストップしてしまいます。どうしたらいいのでしょうか？

さがえ なつみ
佐賀枝 夏文

1948年生まれ。大谷大学名誉教授。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少年センター研究員。カウンセラーネーム「サガエさん」です。東本願寺出版より最新刊『すべてが君の足あとだから—人生の道案内—』発売中。



子ども会での「きまり」

お勤めがはじまって、その間にほかの子にちょっかいをだしたりして困る…。このような状態に遭遇された方は少なくないとおもいます。では、ごいっしょに考えてみましょう。

はじめに主催者は、「おはなし」をされるとおもいます。「ここで、出会うしてほしいことがあります」からはじまります。それぞれ言い方も違いますが、内容は「じぶん」「みほとけさま」そして「ともだち」に、「あそび」や「おはなし」を通して出会うしてほしいのです…。ここは学校ではありません。ここは「ルール」や「きまり」を教えるところでもありません。ここでは、無理しないで、自由に「じぶん」を表現して、考え行動してほしいとおもいます。ここは「うれしい」「悲しい」「つらい」ことを隠したり、がまんするところではありません。できるだけ、のびのびとい時間を利用しないで過ごしてくださいという「おはなし」のあとに、「はじめ」と「おわり」をたいせつにしてください。そして、相手を傷つけることばや行動、黙って外に出ることはやめてください。そして、このような「時間」と「場所」をつくっていただいた「みほとけさま」、そして、見守っていただいている「みほとけさま」に感謝とお礼とごあいさつ、「お勤め」をしてはじめてたいとおもいます。

このように「おはなし」と「お勤め」で毎回はじめ、その日の活動があり、「恩徳讃」でおわる、という「きまり」は毎回必要だとおもいます。そのなかで伝えてみてはいかががでしょう。

子ども会の悩みや困りごとをお寄せください！

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…oyc@higashihonganji.or.jp

あなたの
お寺の子ども会の写真で
巻頭を飾りませんか？

蓮ちゃん通信 その③

子ども会情報募集中！

「お寺にどう子どもたち」の写真や動画など子ども会の内容をお寄せください。巻頭写真に採用された方には、東本願寺キャラクターグッズをプレゼントします！

宛先は、「郵送」または「E-mail」
oyc@higashihonganji.or.jp
「『ひとりから』子ども会情報係」まで



◎「ひとりから」に携わり四年目。紙面づくりにしながら子ども会の様々な可能性を感じるようになりまし。

夏は、お盆参りやお墓参り、境内でのラジカ体操など、子どもと触れ合う機会が多い季節でもあります。一瞬の出あいでも共有できるのか、夏支度をしながら考えてみたいと思います。(編集長)

◎毎年五月の連休明けから六月上旬に真宗本廟境内において開設する「修学旅行生参拝案内所」も三年目の取り組みを終えました。少人数のグループで参拝に訪れる学生「ひとり」に声を掛け、語りかける。どこまでも地道な歩みでありながら、それが教化の原点であると感じます。

まる裸の私一人に誤魔化さずになり切つて「ひとり」と出あつてこができたなり…。

「ひとりから」も創刊四年目を迎えます。

―僧語る影と光の堂涼し―(青セ主幹)

編集後記

